特定非営利活動法人 元気な120才を創る会
延ばそう・健康寿命

月刊 高齢者見守りサービス最前線レポート
みまもりプレス

15.SEP.2022
9月15日号
通巻063号

■発行所／(株)びゅ～すまいる編集舗・みまもりプレス編集部
■2022年9月15日発行号 ■TEL.03-6807-8287 ■発行者・編集人／八木澤 晃 ■毎月第3木曜日発行

Hamee × otta　https://hamic.ai

「DX」で子どもたちの見守りが進化

――「親が子どもを見守る」から「街が子どもたちを見守る」へ――

Hamee(ハミィ／神奈川県小田原市)では、キッズスマホ『Hamic POCKET L(はみっくポケット エル)』について、見守りサービスに特化した事業を展開する otta(オッタ／福岡市)と事業連携を実現。デジタルによる「子どもたちの見守りサービス」の共同開発に取り組む。これにより、「親が自分のこどもを見守る」従来の見守りサービスから「街がこどもたちを見守る」という新たな形へ、デジタル技術を活用したサービスの進化を目指すという。

『Hamic POCKET L』は、デザイン性と見守り機能が充実したキッズスマホ。『otta』との事業連携を通じて、「親が自分の子どもを見守る」という「点」の見守りだけではなく、「街が子どもたちを見守る」という「面」での見守りへとデジタルでの見守りの概念を進化させた『MIELS(ミエルス)構想』の実現を目指す予定とのこと。

「具体的には、学校やお店、タクシー等への見守り基地局の設置や、地域住人などが子どもたちを見守るためのアプリをスマホにインストールすることで、犯罪や災害が発生した際に子どもたちの居場所を特定するための多種多様な検知を可能とし、位置情報や接触情報をもとにした迅速な問題解決を図るサービス開発を推進していきます――(同社リリースより)」

『MIELS(ミエルス)構想』のアクションとして、『Hamic POCKET L』の内蔵 GPSを用いた位置情報エリア通知サービス(ジオフェンス)を共同開発し、現在リリースされている『otta』のアプリを共同でバージョンアップ。同アプリを『Hamic POCKET』ユーザーの保護者のスマホにインストールすることで、こどもの位置情報や行動履歴を確認したり、学校や自宅等の特定のスポットを「見守りスポット」として設定し、同スポットに子どもが到着した際に通知を受け取ることが可能となる。『Hamic POCKET』ユーザーは同アプリを無料で利用できる。

「『MIELS構想』により、日々の生活で心理的、環境的に「あんしん・あんぜん」を実感できる社会を築くことができれば、各々が自由で自分らしく生きていける世界へと繋がっていくと私たちは考えています。「ファーストスマホ」を手掛ける事業として、引き続き事業成長の加速に努めてまいります――」(Hameeのコメント)

シニアが元気になると
日本が元気になる！
元気シニア倶楽部
会員募集中!!
――入会費・年会費なし――
一般社団法人
日本元気シニア総研
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿4-4-5 第3伊藤ビル4階
tel.050-5533-3100 fax.03-5791-5859 Email. info@genkisenior.com

「熱中症警戒」や「乾燥警戒」を知らせてくれる見守りファクス

離れて暮らす家族に自動的に電話をかけて通知：パナソニック

パナソニック（東京都港区）では、パーソナルファクス『KX-PD750』シリーズを2022年10月より発売する。

本機はファクスが設置されている室内の温度や湿度をセンサーが検知し、「熱中症警戒」や「乾燥警戒」を音声と液晶ディスプレイの表示、着信お知らせLEDの点灯・点滅で通知してくれる「温度・湿度アラーム」を搭載。この機能によって、室内の温度や湿度を把握し、調節の目安にできるほか、離れて暮らす家族の携帯電話などに自動的に電話をかけて通知することもでき、見守りにも役立つ。

さらに「迷惑電話相談」機能を搭載し、呼出音が鳴る前から通話後まで迷惑電話を防止する機能が充実しているのも特徴。その他、受信したファクスの内容を親機の液晶画面で確認できる「見てから印刷」によって、必要な内容だけ印刷でき、紙やインクフィルムのムダを省くこともできる。

https://holdings.panasonic/jp/

おねつの見張り番『発熱計』専用スマホアプリがバージョンアップ

高温警告のリモート通知も声で温度をお知らせ：ポップニート

https://popneat.co.jp

育児の負担軽減のための製品を送り出すポップニート（東京都足立区）では、発熱状態を簡単に見守ることができる『発熱計』専用スマホアプリの新バージョン 1.5を、9月 6日より App Storeおよび Google Playにて公開した。

「『発熱計』はウェアラブル温度計デバイスと専用スマホアプリの組み合わせで動作し、24時間発熱状態を自動で見守り、グラフに表示、高温時には音声と通知で異変を知らせる、『おねつの見張り番』です――」（同社）

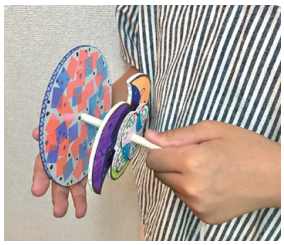
測定温度が設定した高温警告温度を超えると、声と通知で警告。通知音、通知バイブレーションに加え、ユーザーが気付きやすい「音声」でも知らせてくれる。音声は『VOICEBOX：四国めたん』による、はっきりしたタイプを採用しているという。新バージョンでは音声の種類を、超過警告「温度が○○.○℃を超えました」と、温度警告「温度が△△.△℃になりました」から選択できるようになっている。

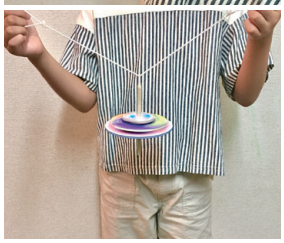
情熱の発明商品・発掘プロジェクト
生活にやさしい『なるほどアイテム』を探せ

当コーナーでは、発明学会（東京都新宿区）のご協力をいただき「情熱の発明品」をご紹介。子どもや高齢者、そして生活全般にやさしい「なるほどアイテム」をピックアップします！ 掲載された商品に興味のある方は下記までご一報ください。

第62回 回せば色も模様も変化する！ ヒモで回す垂直ゴマ

『カラフルスピナー』





工作の好きな姪っ子ちゃん達のために、身近なダンボールから「コマが作れないか？」と思い立った原友香利さん。コマは、回すだけで止まっている時と全く違う模様が表れ、見て楽しめるおもちゃとして優れものですが、昔あそんだ、「ブンブンゴマ」の要領で、段ボールから切り出したパーツをタテに重ねて回したら、上から見た時に面白いのでは？ という着想がひらめきました。

さっそく身近なダンボールを円形や星形、多角形形などに切り抜き、色や模様を付けてみました。中心には回転軸となる中心に棒を刺せる穴を開け、棒の先には、左右に伸びるヒモを取り付け、左右にヒモを引っ張ることで、子供でも簡単に回転させることが出来るように工夫しました。

さっそく、コマを回して上から見てみると、色が混じったり、模様が現れたりと様々な変化が生まれることを発見。姪っ子ちゃんたちも喜ぶ様子に自信を持った原さんは、発明学会と交流のあるダンボール製品メーカーの株式会社タカオカにアイデア提案。結果、「ぶんぶんごまを縦型に回す、発想の転換も面白い。黒1色で描いたデザインが、回転によって赤や緑色に見える『ベンハムのこま』という事象も再現できるなど、商品としての可能性を感じた」と、同社常務の笠井さんの大絶賛を受け、見事商品化が決まりました！

姪っ子に喜んでほしいという気持ちから生まれたこの発明品ですが、今度は全国のお子さんそれぞれがワクワク楽しんでもらえたら嬉しいとのこと。発売開始は令和4年9月末の予定。

姪っ子さんに続き、今度はコマで遊ぶ全国の子供たちの笑顔が、今から目に浮かぶようです。（松野泰明）

無料プレゼント！ 発明ガイドブック

「発明ライフ・入門」（希望者は下記まで）

〈この商品のお問い合わせは〉

一般社団法人 発明学会 発明アドバイザー 松野MP係 まで

東京都新宿区余丁町7番1号　発明学会ビル

☎ 03（5366）8811　y-matsuno@hatsumei.or.jp

こちら『元気シニアビジネスアドバイザー!!』

ブレーンモンジュ・林野 均の「シニア〝萬〟遊記」第60回

近藤誠先生のこと

医師の近藤誠先生が８月１３日に亡くなられました。享年 73 歳でした。

近藤誠先生は 1948 年生まれ。1973 年、慶應義塾大学医学部を卒業し同大学医学部放射線科入局。米国留学を経て 1983 年から同医学部放射線科講師を務め、2013 年に「近藤誠がん研究所セカンドオピニオン外来」を開設。

先生は「健康診断は受けてはいけない」という考え方を提唱されていました。以下、先生の述べられていた内容を要約します。

日本では職場の健康診断が義務化されています。会社勤めの方のほぼ 100%が健康診断を受けています。受けなければ会社に対して罰則があるからです。この健康診断の義務化は個人の健康を守るためではありません、医者や病院、厚生労働省の権益を確保するためです。健康診断の結果には基準となる数値がありますが、上下何%かが「異常」とされます。絶対値ではなく相対値です。これだと病人の候補者が確保できるからです。ある程度の病人がいないと医者は売上を確保できません。医者の失業対策ですね。健康診断の結果「病人」となった人には薬剤の投与や手術がおこなわれます。その投薬や手術のためにかえって状態が悪くなることが多く、結果、死期を早めることになる。近藤先生はそれを「治療死」と表現されています。

また、高血圧と診断された人に投与する降圧剤ですが、血圧を下げると血流が減るため脳の働きが落ち、記憶力や判断力の低下、無気力などが生じ、ボケに似てくるそうです。

以上が近藤先生の考え方です。私個人では先生の考え方が正しいのかそうでないのかは正直判断できません。近藤先生の説には多くの医者が異を唱えています。それはそうでしょう、自分たちの顧客がいなくなりますから。

いずれにしろ、私たちにできることは、誰かの言うことを 100% 信じるのではなく、自分で情報を収集し、自分の頭で考え、自分で判断することではないでしょうか。

Author／林野 均（はやしの ひとし）
プランニング・ブレーン・モンジュ代表／一般社団法人 日本元気シニア総研研究委員
『元気シニアビジネスアドバイザー』資格を取得後、元気シニア総研研究委員として、シニア向け商品やサービスの取材を「自らのシニア目線」で精力的に行なっている。 https://planningbrain.com